

表2 SP Fうずら群の検査及び処置

平成20年3月21日(告示第412号)一部改正

病 原 体	供試抗原 ¹⁾	検査時期及び検査回数				検査方法 ²⁾	処 置
		第1回		第2回以降			
		時 期	羽数(%)	時 期	羽数(%)		
ニューカッスル病ウイルス	石井株	8～12週齢	20	3か月毎	10	HI	³⁾ 陽性群及び同居群 全殺
鶏白血病ウイルス	Sub-A,B	"	"	"	"	SN	
鶏脳脊髄炎ウイルス	Van Roekel株	"	"	"	"	ELISA	
鶏伝染性気管支炎ウイルス	NS-175株	"	"	"	"	ELISA	
細菌内定ウイルス	T株	"	"	"	"	FA	
マレック病ウイルス	JM株	"	"	"	"	FA	
伝染性ファブリキウス嚢腫ウイルス	J1株	"	"	"	"	ELISA	
トリレオウイルス	Uchida株	"	"	"	"	DID	
トリアデノウイルス	Ote株	"	"	"	"	DID	
トリインフルエンザウイルス	5331株	"	"	"	"	DID	
鶏貧血ウイルス	Gifu-1株	"	"	"	"	FA	
七面鳥鼻気管炎ウイルス	MM-1株	"	"	"	"	FA	
トリ(ラ)ミクソウイルス	Yucaipa株	"	"	"	"	HI	
ヘモフィルス・パラガリナラムA型	221株	"	"	"	"	HI	
ヘモフィルス・パラガリナラムC型	S1株	"	"	"	"	HI	
ひな白痢菌	9-25株	"	"	"	"	AGG	
マイコプラズマ・ガリセプチカム	S6株	"	"	"	"	AGG	
マイコプラズマ・シノヒエ	WVU-1853株	"	"	"	"	AGG	
サルモネラ(ひな白痢菌を除く。)		"	"	"	20	菌分離	
うずら痘ウイルス		毎 日	100	毎 日	100	臨床観察	

注 うずらの健康状態、異常な点等については全て記録する。死亡したうずらについては病理組織学的検査等を行う。

- 1) 供試抗原は、他の適切な株を使用してもよい。
- 2) 同等な検査方法があればその検査法を採用してもよい。検査方法は、その妥当性が検証され、保証された方法で実施すること。 HI：赤血球凝集抑制反応 ELISA：免疫酵素抗体法 SN：血清中和試験
FA：蛍光抗体法 DID：二元免疫拡散法 AGG：凝集反応
- 3) 同居群とは、陽性群と完全に隔離されていない群をいう。